

# 万博パビリオン を語る

住友EXPO2025推進委員会（住友グループ）の中村邦晴委員長（住友商事会長）は、自然や環境をテーマにしたパビリオンを建設し、来場者の関心に応じて異なる体験ができる仕組みを取り入れる方針を示した。

## 30年後も自然に思いを

住友EXPO2025  
推進委員長

中村 邦晴氏



1970年の大阪  
万博の住友パビリオン

住友グループが出展する「住友館」では、自然や環境問題を取り上げます。2025年の国際博覧会（大阪・関西万博）のテーマには「いのち」というキーワードがありますが、いのちは人間だけが持つものではありません。植物や動物はもちろん、地球にだけあるかもしれません。い

住友グループの出展する「住友館」では、自然や環境問題を取り上げます。2025年の国際博覧会（大阪・関西万博）のテーマには「いのち」というキーワードがありますが、いのちは人間だけが持つものではありません。植物や動物はもちろん、地球にだけあるかもしれません。い

「住友館」では、自然や環境問題を取り上げます。2025年の国際博覧会（大阪・関西万博）のテーマには「いのち」というキーワードがありますが、いのちは人間だけが持つものではありません。植物や動物はもちろん、地球にだけあるかもしれません。い

す。例えば、虫に興味を持つ人と魚に興味を持つ人は違います。関心に応じてルートを変えながら、最後は合流する。

住友グループの企業が持つ最新技術も紹介する予定です。パビリオンの入り口を別に設け、並ばなくても技術に興味を持つ人が見学などができる。万博終了後、解体した住友館の木材をベンチなどに再利用できないか検討しています。

大阪は祖業といわれる銅の精錬を本格的に始めた場所です。住友グループにとってビジネスの原点。グループ各社の多くは東京に本社を移転しましたが、大阪・関西の発展のために資するようなことをしたいです。

（聞き手は三宅亮）  
〓おわり